岩井整形外科内科病院　取材記事

掲載日：　2010 年 9 月
掲載紙：　日刊ゲンダイ　サラリーマン新健康ワイド「椎間板ヘルニアには PELD だ」
発行・編集：　2010 年 9 月発行　日刊現代

サラリーマン新健康ワイド　日刊ゲンダイ　2010年(平成22年)9

椎間板ヘルニアにはPELDだ

経皮的内視鏡腰椎椎間板ヘルニア摘出術

忙しい人にはありがたい

1、2泊の入院で済む。手術時間は30分

腰椎椎間板ヘルニアは、腰椎の椎間板の一部が飛び出し、神経が圧迫され、足腰にしびれや痛みが生じる病気だ。進行すると歩行も座位もつらくなり、日常生活が不自由になる。この治療法として注目を集めているのが「PELD」だ。どういうものか、「岩井整形外科内科病院」の古閑比佐志脊髄内視鏡医長に聞いた。

PELDの正式名は、「経皮的内視鏡腰椎椎間板ヘルニア摘出術」だ。

「最大のメリットは、患者さんの負担が非常に少ないこと。内視鏡を椎間板に挿入しヘルニアを摘出するのですが、内視鏡の直径が極小で体の傷あとが7ミリと小さく目立たない。出血もほとんどありません。手術時間は30分ほどで、術後数時間から自力で歩け、痛みは軽く回復が早い。入院も1～2泊です」

つらさと手を切れる

従来のヘルニアの手術は、①腰部を5センチほど切って筋肉をはがしヘルニアを摘出する切開手術②背中側から筒を入れて内視鏡を挿入しヘルニアを切除する内視鏡手術「MED」の2つ。今は患者の負担が少ない内視鏡手術が一般的で、②が広く行われているが、PELDはMEDよりさらに負担が少ない。

MEDは全身麻酔だが、PELDは硬膜外麻酔（意識を残した麻酔の一種）でOK。全身麻酔は麻酔による事故がゼロではないので、その点では硬膜外麻酔の方がいい。しかし、マイナス面もある。

「PELDの内視鏡は小さいので視野が狭く見えにくい。治療中に神経を傷つける可能性があるので、痛みなどを患者さんに報告してもらうため、わざと足の感覚を少し残して硬膜外麻酔をかけます。すると怖がりの患者さんだと、〝痛くてできない〟ということがあるのです。実際の痛みレベルは大きくないのですが……」

例えるなら、歯の親知らずの手術を「大したことがなかった」という人と、「耐えられなかった」という人がいるのと同じ。痛みを気にするタイプの人は最初からMEDを選択することが多いという。

ヘルニアがきれいに取れている
（術前）（術後）

内視鏡筒の直径はこんなに違う
（左がPELD、右がMED）

PELDのもうひとつのマイナス点は、健康保険が適用されないこと。100万円超の費用を請求されるケースもある。ただ、医療機関によっては健保適用のMEDと変わらない金額で行っているところもあるので、一度相談してみる手はある。ちなみに、岩井整形外科内科病院でPELDを受けると、3日入院で10万円だ。

「デメリットというのではありませんが、PELDは極小内視鏡だけあって、MEDより視野が狭く、熟練した技術が必要になります」

人によっても、向き不向きがある。肥満の人はPELDがいい。PELDの方が内視鏡が長いので、脂肪が厚い肥満でもヘルニアまできちんと届く。「椎間板が薄い」「脊柱管狭窄症を合併している」「ヘルニアが頭側などに大きく脱出している」という場合はMEDが適している。

とにかく、長期入院が難しいサラリーマンにとっては、1～2泊で済むPELDが〝助かる治療法〟であることは間違いない。

医療法人財団　岩井医療財団　岩井整形外科内科病院
Copyright iwai Medical Foundation. All right reserved.